

ゆりかご 園だより



2期のねらい(6~9月)
からだづくり活動を通して子どもの仲間
関係の質を高めよう
2023・7・1

ゆりかごは北大が近いこともあり、外国家庭のお子さんが多いことも特徴の一つです。調べてみると、1980年代から在籍し、これまでに25か国187名の子どもたちが在籍していました。これだけの子が保育園で友だちをつくり、園生活を楽しんで

ましたが卒園した子は36名。多くの子たちは年度途中や年度末で保護者と一緒に帰国するなど、札幌を離れてしまうのです。寂しい限りです。

今、ぞう組は今月上旬の「お泊り会」に向けて仲間たちと話し合いを重ねています。4つのチームそれぞれにリーダーをおくことになり「どんな人がリーダーになるといいか」と、メンバーが相談している場面を見ました。あるチームでは数人が「Tがいい!」「TはHが気づけてお仕事(保育活動)しはかた時、優しく教えてあげていたもん」と口をそろえて言いました。本人も「そうかなあ」と、まんざらでもない表情だったので、私はTちゃんにすぐ決まるのだろうなと思っていました。この日は他のチームがなかなか決まらず、リーダー決めは保留となり翌日また相談が始まりました。チームのメンバーに背中をもう一押しされ、Tちゃんに決まるのだろうなと思っていると、「Tはもうすぐで保育園をサヨナラするから、リーダーはずとゆりかごにいる人の中から決めてほしい」と言ったのです。お泊り会に向け期待を高めているであろうTちゃん、当日は参加できなくてもそれまでの間、リーダーを担ってもらっても良いのではと思ったのですがTちゃんの意志は固く、他の子の同意もあり「Tちゃん以外で…」と相談が始まりました。相談の結果Yくんになりました。Tちゃんは、チームのメンバーに任せるには不安があるとも思ったのが「園長先生、T、保育園辞めちゃうけどHのことよろしく頼むね」と一言。そして続けて、「いや、保育園の子どもたちみんなのこと頼むね」と笑顔で言っていました。一日でTちゃんの気もちがどう動いてそのような判断になったのかはわかりません。しかし、表情を見ていると、わだかまりのないスッキリした様子だったので、納得しての判断だったのでしょうか。

Tちゃんは今3歳の時に入园しました。日本語も話せず、環境の変化に不安いっぱい、登園時は涙まみれに泣いていました。それから2年3ヶ月でこんなに流暢に日本語で会話し、友だちにも心を寄せることができるようになったのです。帰国するため6月末で退園となり、クラスの子たちと一緒に卒園できないことが本当に残念です。

その後、給食室の前では「いつもおいしいご飯をつくってくれてありがとう。いいい食べたから大きくなったよ」と頭を下げていました。

Tちゃんが保育園を去るのは悲しいけれど、こんなに素敵に成長したことを嬉しく思います。いつかまた、会える日がくることを願っています。